

ほんにかえるプロジェクト 会報

2016年1月創刊

かえるのうた

第16号 2019・5月



画 Gabrielaiko s.c.q

ほんにかえるプロジェクト発行
汪楠責任編集

春陽に 散るを急ぐな さくら花

平成の世 移りゆくとも



代表 田中 伸彦

時は様々な貌を見せながら それぞれの生命を包み込みながら流れて行きます。

ほんにかえるプロジェクトにかかわる、全ての人々の中にも平成31年間の時がそれぞれの重みをもって刻まれているのでしょう。

被收容者の自立更生を願って創刊された「かえるのうた」も4度目の春を迎えました。

折りしもこの5月からは元号が変わり、新たな暦が紐解かれます。

元号が変わっても時はたゆまず流れ、私たちの望みや悔いは私たちの心の内にあり続けます。

明日の世界がどう変わり、この地球上の生き物の未来がどうなるのか予測がつきません。

ただ花びらが風に散っても、その後新たな新緑の芽が生まれ出る自然の力の逞しさに驚かされます。

私たちの「ほんにかえるプロジェクト

ト」も多くの困難さを抱えています、継続させる努力と熱意を惜しまずに運営していく所存です。

収監されている方々には当プロジェクトの対応に、ご不満やご要望があるでしょうが、お互いのつながりがより実りあるよう確かな信頼関係を築いていける事を願っています。

”誰にとっても抱えている苦しみは変わらない、変わるのはいつだって希望だけなのだから”



つみかさね

Gabrielaiko Ide s.c.q.

80歳を目前に、そろそろ店じまいを考えなければならない。“断捨離”はそれほど苦にならない。どだい持ち物が少ないし、たいした物も持っていない。生まれも育ちも、そこそこ人並みであった。

ただ一つ、“この母がある限り”と思えたことは私の最大の宝物だろう。

このところ、教会はイエスの受難と復活を祈る季節にある。イエス様が十字架のもとに佇まれる母マリアをご覧になって、“この母がある限り”と思われ励まされていたのではないかと思うようになった。イエスは死と復活の後、初代教会の礎を母マリアの上に築かれた。イエスの救済のマスタープランは全人類の母としてのマリアの位置づけだった。“この母がある限り”一人としてとりこぼすことはない、と言う熱い信頼があった。

私の部屋の窓の外に、2段組になった石垣があり、角に50c㎡に満たない土があった。父はそこにイチゴの苗を3株ほど植えてくれた。生き活きとした緑の葉、やがて白っぽい小さな実がみえ、徐々に赤くなっていく。私の生活圏に小さな彩と空間がひらけた。石垣は自然石の積み重ねであり、苔が生えて趣があった。

ふと思う。石を積み重ねてこそ石垣になる。“努力の積み重ねが実力”と横刑の友達からの手紙にあった。

人生を振り返る時、私に足りなかったのはこの“積み重ね”ではなかったかと……。

事務局からのお知らせ

汪 楠

PJでは事務局に実務が集中し、常勤スタッフが汪楠一人しかいない状態が2年以上も続きました。

在宅スタッフがいるのにもかかわらず、実務をうまく分担できる体制が取れず、内外の会員にご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

現状を改善するべく、役員会で協議の結果、**新体制を構築**することにしました。新体制の詳細については別紙でお知らせします。

現時点で決定しているのは
第一に内部 会員からの依頼を迅速に対応できる体制に改善すること。

そのための大きな変更点は以下。

1 PJ 神奈川支部を新設し、アマゾン購入代行業を重点的に扱うスタッフを置く。

2 PJ 本部に常勤スタッフを1名増員し、無償本提供を重点的に扱う

3 書籍の在庫をチェックし、不人気ジャンルや汚損書籍を大々的に処分し、書籍整理スペースを確保する。

4 現金書留や切手などの金券の送付先を本部から神奈川支部に変更する。

5 本部事務局 134-0003 東京都江戸川区春江町 5-15-31 **ほんにかえる**プロジェクトは書籍の寄付を受け付け、入会申込や問い合わせの受理および依頼を含まない手紙を受理する。

6 神奈川支部 庄子佳代子
内部会員からの依頼を含む手紙や現金書留・手紙の対応とアマゾン購入代行を受理する。

外部交通の願箋提出時は以下の個人情報登録してください。

庄子佳代子 PJ 総務担当
1950.8.27 生まれ

誕生カードをお贈りしました

誕生カード担当 M.ロザリア
綾

皆様はお造りになった全てのものを「極めて良かった」とご覧になりました。人間も神様に造っていただきました。一人ひとり「良く」造られ、生きていることには意味があります。

寒い冬は過ぎ去り、若葉になりました。体を動かすのも楽になってきました♪ 前号、誕生カードの記事を載せることができませんでした。申し訳ありませんでした。

前号～今号までに下記の方々にカードをお贈りしました。

お誕生日、おめでとうございます！！

10月生まれ K.K.さん、M.Y.さん
D.F.さん、Y.O.さん、Y.K.さん
K.M.さん K.I.さん

11月生まれ Y.S.さん

12月生まれ T.U.さん、M.S.さん

M.H.さん、K.N.さん、T.Y.さん
O.S.さん

1月生まれ M.A.さん、S.H.さん
S.M.さん、T.Y.さん

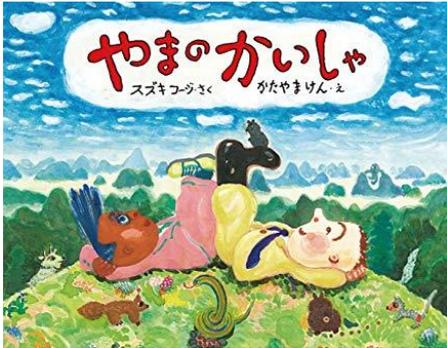
2月生まれ Y.I.さん、K.K.さん
S.I.さん、T.N.さん

3月生まれ K.N.さん、T.N.さん

「ほっこりかえる」報告

庄子佳代子

2月14日の集まりでは「やまのかいしゃ」(スズキコージ作・片山健絵)を読みました。



主人公のほげたさん、朝寝坊をして大あわて。カシもメガネも持たず、トイレのスリッパを履いてペタペタ駅に向かって会社と逆方向の電車で飛び乗ります。着いた先は「やまのあなた」という山の中の駅。空気がうまい!山を登ると気分爽快!そうだ、ここを会社こしようと思立ち、さっそく会社で電話をすると、社長が社員一同をつれて山を登ってきます。

現実にはあり得ないシチュエーションではありますが、「世の中はこういうもの」と思込んでいる固まった頭を柔らかくしてくれます。

みなさんの感想は?

✧働くことに慣れて、疑問を感じながらも現実から離れては食べてゆけない。ゆとりのない毎日を思う。

✧夢みたいなおぼなし。

✧うらやましい。ほげたさんになりたい。

こういう人を裁かない、つまはじきにしない社長や会社の人達も大したもの。車中で食べようとしたおむすびが胸時計が入っていた。時計を握ってしまう奥さんも変。さすが、変なほげたさんの奥さんです。

✧その人が仕事をしたい場所が会社だったらいいのに…。その人に合った働き方ができるのは大切。今はそういう人も、パソコンを使う仕事ならば

✧高輪ひた方が、ITの仕事で、長野で働くようになった例もある。

✧現実には、ほげたさんお適に障害と言われるだろう。

✧日本お適の範囲が狭い。狭い枠からはみ出た人を排除しようとする。

✧アスペルガーなどの発達障害の人は生きにくい。

✧小さい頃から塾ひおかり行って、すり切れたままひになってしまう。

スズキコージさんにとっては、このおぼなしは日常の延長だそう。「現実」って何なのでしょね。人はそれぞれの「現実」があることに気づきたいと思いました。

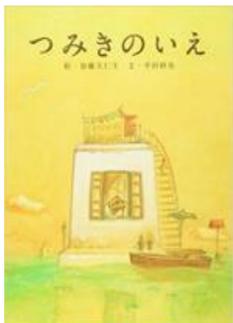
「つみきのいえ」

加藤久仁生/絵 平田研也/文 白泉社

4月11日(木)は、2009年アカデミー賞短編アニメ映画賞ほか多くの賞に輝いた作品の絵本版を読みました。

おじいさんの住む街では、海の水がだんだん上がってきて、やがて家は水没します。おじいさんは上に上に新しい家を建てて、積み木のように重なった家の一番上に、一人で暮らし続けていました。

ある日、うっかり落として沈んでしまった大工道具をとり、海に潜っていくと、そこは奥さんが亡くなった



家でした。更に更に潜ると、長女が結婚した家、子どもが小さかった頃の家、初めて赤ちゃんが生まれた家、新婚時代の小さな家が現れました。

❁家の積み重ねが年輪のよう。一人の人のその時代、その時代の成熟を感じる。

❁それぞれの家の出来事を全部見てきて、いいものだった。今、穏やかに居る。納得して、満足して、一人で居ることができる。

❁い人生

新しい家の割れ目に咲いた小さなタンポポを見て嬉しそうに笑うおじいさんを描いて、お話は終わります。

内部会員の方も、絵本を読んでもたい方は、ついでのときにご連絡ください。創作童話も募集しています。書いてみませんか！

わたしたちは更生できるのか

事務局長 汪 楠・

私自身は受刑経験があります。そして凶悪犯罪を起こした過去もあります。

13年間の受刑生活を終え、自身の更生とともに受刑者の更生を支援する活動を4年間続けてきました。13年間の受刑生活の中でいろいろな犯罪を起こした人たちと生活を共にし、更に更生支援活動の一環として、面識もない230名の受刑者と文通をしてきました。その経験から言いますと、凶悪犯といわず、どんな犯罪でも今の刑務所では更生しにくいと考えます。更生できるかどうかを考える前に、なぜ更生する必要があるのか？誰のために更生するのか？何をもって更生というのか？を考える必要があると思います。

なぜ更生する必要があるのか？を考えると、一つの答えは誰もが住みやすい社会を作っていくには犯罪を失くしていくべきで、そのためには被害者を生まない必要があります。被害者を生まないためには加害者を懲らしめ、犯罪させないという考え方が古代からありました。この考えがもとで自由を拘束する近代の応報刑があります。しかしそれだけでは犯罪の抑止力にならないことが研究で判明した。そこで特に先進国では自由刑に変わって教育刑にシフトするようになりました。

応報刑に対立する刑罰理念。応報刑論が、犯罪に対する応報であることによって刑罰は正当化されると考えるのに対し、教育刑論は刑罰の教育作用を最重要視し、教育刑によって受刑者の社会復帰をはかろうとする。

今日では、応報刑論をとる学者でも、罪刑の均衡を破らないかぎり特別予防目的を考慮しており、とりわけ現実の刑の執行（行刑）の段階では、犯罪者の改善、教育を重視すべきことを認めている。（出典 ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典）

応報刑だけではなぜダメかという、応報として刑に服した以上はもう自分に責任はないという考え方につながるからと思います。犯罪は被害者だけではなく、加害者をも不幸にします。誰もが幸せを求める権利があると思います。日本憲法の幸福追求権の観点からでも更生が必要と私は思います。これは誰のために更生するのか？の答えにもなるかと思ひます。

何をもって更生というのか？については本当に難しい問題です。社会に復帰して普通の生活に適應することが大前提であることと思ひます。犯罪しないことが更生かという、そうではないと思ひます。社会生活に適應できなければ



本人も苦しむし、新たな犯罪に走る可能性も高くなります。

更生の前に反省が必要であり、そのためには犯罪に走ったその人の背景や事情をも理解する必要があると考へます。PJ ではこのような考へのもとで受刑生活を送っている人たちを社会から孤立されている現状を改善し、人権云々ではなく、人を人として接し、そのつながりを持って犯罪に走ってしまった人たちの反社会性を失くしていくことができれば、被害者救済にもつながり、みんなが住みよい社会を作ることにつながるかと思ひ、活動を続けていきたいと思ひます

日本の生活とともにある和菓子



その歴史 連載第1回 作田ゆう子

和菓子という言葉を目にすると、どんなお菓子を思い浮かべられるでしょうか。

和菓子好きなものアンケート（2015年12月マイボイス コム調べ）によると、日本人の好きな和菓子は、①大福もち、②たい焼き・今川焼など、③カステラ、④団子、⑤おはぎ・ぼた餅となっています。

和菓子と聞くと、日本人がまず、好きだと思つて思い浮かべる菓子のランキングなのだと思います。これが、私たち日本人の、日常のお茶菓子としての和菓子なのでしょう。

しかし、その一方で、和菓子と言えば、より伝統的なものという考へ方もあります。

たとえば、2014年秋には、和食に続き、日本茶と和菓子がユネスコの無形文化遺産に登録されたことはご存じでしょうか。こちらの和菓子は、日本の伝統文化を形作るお菓子で、茶道との関係が深いのです。両極端といつては何ですが、和菓子という言葉で表されるものは、シュチュエーションで決まる、といつてもよいのかもしれない。

【和菓子の定義とは？】

では、和菓子とはいつたい何なのでしょう。実は、日本が開国した明治以降、西洋菓子が

大量に日本に入ってきて、そのバリエーションも、考案されていきました。

たとえば、戦国時代に日本に入ってきたカステラや、明治時代の鳩サブレ、あんパンなど。こういうお菓子は、和菓子でしょうか。それとも洋菓子でしょうか。境界線がはっきりしません。

そこで、大正時代末期に、「和菓子とは西洋菓子でない、我が国のお菓子すべて」という定義ができました。いや、むしろ現代では、「西洋のオリジナル菓子を除く、すべての日本のお菓子が和菓子」と呼べるように思われます。それにしても、奥が深い和菓子の世界。

今回は、和菓子の歴史をたどりながらその実態を解き明かしていきましょう。「菓子」という言葉の元の意味は、現在の生の果物を表す水菓子です。自然界にある、甘みのある食物を食事以外に食べたのが、お菓子の始まりだと考えられています。では、菓子の原型を古代からご紹介してまいります。

【菓子の起源—自然界の甘いもの】

最初のお菓子は、くだものや、木の実が起源です。なお、縄文弥生時代には、早くも、せんべいの原型や、赤米から作った餅の原型も登場しています。しかし、あくまでも供え物や食料として、芋や栗の粉を薄くのばしたものを焼いたものです。また、餅や団子の起源となる、穀物からつくる菓子の原型も、神聖な供え物として登場しています。

ところで、甘いものといえば、今の時代で最初に思い浮かぶのは、砂糖でしょう。

そこで、ここからは、砂糖との関係を切り口にして、和菓子の歴史をご紹介します。(次号に続く)



値上げ



先日日用品が 11 品目値上げされたのですが、値上げはこれまでに何度も行われてきましたが、今回は驚きました。一番驚いたのが生活で一番の必需品であるチリ紙です。

チリ紙(花)が¥398 が¥529 と一気に 135 円もの値上げです。700 枚入りで中身は全く同じ枚数です。

Hoxy(800 枚入)が 615 円ですからね。他にもツインエクスシェイバー

¥4650 → ¥5003

座布団 ¥1658 → ¥1825

靴下厚手 26・28cm ¥710 → ¥781

5 本指靴下 26・28 cm ¥657 → ¥723

防寒長袖U首ユニチカ 3L

¥3456 → ¥3801 (ズボンも)

など軒並み値上げです。

報奨金は全く上がらないのに、日用品は定価改定のたびに値上げですからね。ヒドイですよ。

報奨金は月 3 分の 1 しか使えず、領置金が 1 万円以上あると、1 円も使えません。(千葉は月 2 分の 1 まで使えるそうですが。)

私等は、エームサービスの扱う物しか買えませんから、そのエームサービスはただ単に注文をカウネットに注文

してるだけで、業務用品価格で仕入れて、定価で売るというあこぎな商売です。

これって独占的地位を利用した独占禁止法違反ですよ。

電卓なんて2千円～3千円のカシオDF-120GT-Nが¥7560で5千円近く抜いてるんですよ、これをあこぎと言わずして、何と言う？(笑)

公正取引委員会に言ってエームサービスと法務省の随意契約を問題提起してほしいものですよ。

本当にこの事どうにかならないですかねえ。悩ましいですよ。以前にも雑誌「紙の爆弾」で2回か3回エームサービスの問題が記事で出ていましたが、見ましたか？

全国的に値上げでしょうからねえ。もう本当にチリ紙を買うのも馬鹿らしくなってきましたよ。

高卒認定試験合格の喜び



昨年11月10日 11日に「高卒認定試験」を受験しました。12月10日にその合否結果が私の手元に届きました。ハラハラドキドキしながら、その書類

を読んでいくと…合格でした。(笑)初めて受験したんですが、1日目に5科目、2日目に3科目の計8科目を受験し、何と一発合格することができました。昨年末に井手さんにも話をさせていただいているので、汪さんもすでに承知していると思いますが、本当に嬉しいです。

これで職訓の幅も広がり残刑期を利用して「情報処理」の資格取得にも挑戦しようと考えています。出所後も就職の幅も広がると思うし、年齢が36～37なので、限りがあるとおもいますが、高卒と同程度の能力を有すると認められているので、その中でも幅が広がるおもうのです。10代後半～30代のほぼを含め約20年の拘禁生活を送ってきたので残りの人生を社会で過ごすためにも自分のために取り組んできたことが実を結ぶことができ、本当に自分に対してお疲れ様と言ってあげたいです。こうして嬉しい報告をできるのも、汪さんをはじめ、井手さん、その他のほかスタッフの方々の心の支え、物的支援のおかげです。本を読んでリラックスできたからこそ、勉強にも集中して取り組むことができたと思います。汪さんの此の活動のおかげで最悪な受刑生活の中ですが、有意義に1日1日を送ることができています。

だから汪さんこれからも苦しい状況が続くと思いますが、やめることなく続けていただきたいと思います。汪さんの活動に感謝している人や楽しみにしている人、心の支えになっている人など、数多くいると思いますので。

まっすぐが解らなくて

Gabrielaiko s.c.q.

ある雨上がりの夕刻、研修会を終えて、内堀通りを九段坂上の交差点に向かって歩いていて、4～5メートル先に行く人の動きが少しおかしい。近づいてみると、歩道の凹凸ブロックに白い杖を小刻みに当てながら、中年の男性が歩いている。50メートルぐらい先に坂上の信号が見える。「あちらの信号まで一緒にいきましょうか?」。「あ、お願いします」。右手に杖、左肩にショルダーバッグ、手に折りたたみ傘がしっかり握られている。数時間前に雨はあがっている。両手がふさがっては危ないだろう。「傘はバッグにお入れになってはいかがですか」と、蛮勇を奮って言った。「あ、もう降りそうにありませんか?」「ええ、大丈夫ですよ」。「降り出した時、捜して取り出すのが大変なので」。えっ? そうか、目で傘を捜せない。目で空模様を確かめることができない。晴眼者の私が新しい認識の入り口で、まごついている。見えないうちに起因する行動上のさまざまな制限を、推測できなかった。

しばらく並んで歩いていると、私の方に少しずつ彼が歩み寄ってくる。「真っ直ぐでよろしいんですよ」「はい」。しばらくするとまた寄ってくる。困ったなあ～。厭だなあ～という感情も動き出しそう。失礼がないよう、冷静で現実的な対応策を講じなければならない。そこ

で、「8メートル位は、まっすぐですよ」と進言。少しもちなおすが、また寄ってくる。「5メートル位は平坦で真っ直ぐです」と「平坦」を付け加えたが、声が少々尖っていたかもしれない。そのとき、「はい。まっすぐと言うのがなかなか解らなくて」という、思いもよらない声が返ってきた。

なに? 真っ直ぐが解らない? 子供の頃真っ直ぐ歩きなさい、と言われて育ってきたのではないか? 真っ直ぐが解らないなんて?!

では「真っ直ぐ」はどのように知覚されるのだろうか。身体機能とか健康に関する仲間うちの会話だったと思う。メニエール症候群の場合、平衡感覚が正常であるか否かを確かめるために、暗い部屋で目を閉じ、両手を前に突き出し足踏みをする方法があると誰かが言った。正常であれば、同じ位置で、同じ方向のまま足踏みをしているそう。まさかと思いつながらさっそく自宅でやってみた。なんと、伸ばした指先は一分もしないうちに壁に触れたではないか。あろうことか、向かい合っていた壁ではなく、その横の壁に触れているではないか。つまり、同じ場所で足踏みしていたはずの私は前進し、しかも90度向きを変えていたことになる。にわかには信じられず、場所を変え、時を変え、繰り返し、やってみた。結果は同じだった。ちなみに私はメニエール症候群ではない。

ピサの斜塔で、「落下の法則」を実験し重い物と軽い物を同時に落としたら、当然重い物が先に着地するというのがアリストテレス大先生のご高説。世界の常識であった。同時着地を説くのが若いガリレオ先生。両者の権威は比較にならない。そこでガリレオは斜塔に登り、「さあさあ、寄ってらっしゃい見てらっしゃい」と大声を上げるでもなく、羽と鉄の塊を同時に手放した。あんなことしなくたって、解りきったことじゃないか。今に大恥かくぞ、と言うのが大方の胸のうち。ところが、あにはからんや、下にいた野次馬どもは、鉄と羽がほぼ同時に足元に着地するのを見た。空気抵抗があるので、完全同時着ではない。だが真空状態では同時であるようだ。

反ガリレオ派は呆然自失、言葉を失い、気を失った。支持派は意気軒昂。さすがガリレオ先生、お若いのにかかわらず、大したものだと、キャンティの極上ワインで大いに盛り上がった、とは書かれていない。しかし、そういうことは一切無かったとも書かれてはいない。

アリストテレスの自然科学分野における権威は一瞬にして地に落ちた。と同時に、方法論として、実験によって真理を論証していく近代科学が幕をあげた。

だが、この実験を一番喜んだのは、天国のアリストテレスではないか。彼は天国の門を入ったとたん、自説の誤謬を知った。早く真理が明らかになるよう、ピタゴラスや後から来たアルキメデスらと語り合ってた。かつて神様とわたりあったアブラハム(創世記18章)も引き入れ

て、天国の主権者である神様に交渉していた。なにしろアリストテレスは真摯で偉大な学究の徒である。己の名誉なんて屁(失礼!)とも思っていない。

ブラインド足踏みで、暗闇の中では方向が解らないという貴重な体験をしたにもかかわらず、盲目の人が方向を捉えにくく、「真っ直ぐ」が解りにくいという理解に結びつかなかったことに愕然とした。

では一体、真っ直ぐはどのように認知されるのだろうか。ふだん何気なく廊下や道路を歩いているとき、私達は壁や周辺の建物などと自分を対置させながら、並行しているかどうかを、無意識のうちにチェックしているようだ。並行していれば真っ直ぐということになる。真っ直ぐは視覚で認識されている。そのような認識過程を、この時まで意識したことがなかった。見えないことがその人の中で、どのような小宇宙を形成し、どのような行動原理に基づいているのか全く理解していなかった。

交叉点にさしかかる。ここから九段坂下に向かう。信号は赤。「肩に手をおかせてもらえますか?」「えっ? ああ、どうぞ」一瞬のためらいは敏感にキャッチされたようだ。「横断歩道には何も知らせるものがなくて…。一番、危ない所なのに」と説明された。

それからというもの、事あるごとに「盲目の人にとって、横断歩道は一番怖い所なの、なぜ?」と聞いてみた。誰も答

えられなかった。晴眼者にはそこは安全地帯として、織り込み済みだし。誰かにとって、そこが全く逆の危険地帯になるとは発想にくい。

確かに横断歩道には、凹凸ブロックはない。それに代わるものも無い。横断歩道を示す白線は晴眼者にのみ有効。しかも、歩行者は一秒をあらそって、渡りきろうとするので、右も左もあったものではない。足がすくむのも当然。殺気だった恐怖にさらされる場である。

道路行政に携わっている知人は、私と盲目の人との道行きを聞いて、「ウー 盲点だった」と頭をかかえこんだ。そして、次回に必ず活かします、と爽やかに宣言した。

実はブロックの凹凸はもう少し小さく、数もまばらな方が靴底にも杖にも感知されやすいこと。横断歩道で信号待ちの時、4枚のブロックが1箇所には纏めて敷いてあるが、方向を示すためには、一枚のブロックの斜め半分には凹凸を打ち、残り半分は平らで、東西南北に敷き分けると助かる、など、同道者から聞いた情報をすべて伝えた。10年後、歩道でそのような凹凸ブロックを散見するようになった。

「杖よりも肩の方がよろしいんですか?」「それは、もう」。肩に手を置くと、前後にちょっと重なった位置取りになり、杖をつかなくてもいいし二人の間には誰もはいってこれない。安らぎが伝わってくる。並んで歩くと隙

間を通り抜けられたり、肩や鞆で小突かれたり、杖も蹴飛ばされたりする。いったん離れると、相手が何処に居るのか解らない。至近距離か地平線の彼方に漂流しているのか、心細い限りである。

ここまでくれば、私にだってもうできる。「5センチくらいの段差があります」と知らせる時には「1メートル先に」、段差は「低く」または「高く」と状況を適格に細かく言う方が親切。緑がきれいですねと言うより、風が気持ちいいですねと言うほうが共感できる。

下り坂の人波をぬいながら、ようやく改札口に着いた。「こちらで、よろしいでしょうか。」「どうも有難うございました」。改札までは3メートル位です。では、失礼しますと互いに別れた。

私にとって初めての大作。15分足らずの短い時間であったが、その後の人との関わりに、大事な視点を獲得させた貴重な体験であった。彼は優れた訓練士であったかもしれない。

学ぶことも多かったが、自制することも多かった。不慣れた領域で緊張度が高く、独りになって正直、ほっとした。半蔵門線のホームに向かいながら、なにか見落としているようで、気になる。「アッ!」と思いついたのは電車のなか。彼は改札に背を向けていた。改札に向かって立てるよう配慮しなければならなかったのに。最後の一手のやり残し。詰めが甘い。まだまだなんだ。



阿Q正伝 (あきゅうせいでん)



鲁迅



汪 楠

「阿Q正伝」は中国の作家鲁迅（ろじん）が1921年に発表した中編小説である。阿Qという、おそらくはこれ以下はないであろう最下層の人間を主人公に設定し、それを縦横無尽に活躍させることにより、巧みな布置の中に農村社会ひいては全体社会のさまざまな人間タイプの思考や行動の様式を、浮彫りにしている。

<あらすじ>

時代が清から中華民国へかわろうとする辛亥革命の時期、中国のある小さな村に、本名すらはつきりしない、村の半端仕事をしては、その日暮らしをする、日雇いの阿Qという男がいた。

彼は、働き者との評判こそ持っていたが、家も金も女もなく、字も読めず、容姿も不細工などと閑人たちに馬鹿にされる。村の最下層の立場にあった。そして内面では、「精神勝利法」と自称する独自の思考法をたよりに、閑人た

ちに罵られたり、日雇い仲間との喧嘩に負けても、結果を心の中で都合よく取り換えて自分の勝利と思い込むことで、人一倍高いプライドを守る日々を送っていた。ある日、阿Qは村の金持ちである趙家の女中に劣情を催し、言い寄ろうとして逃げられた上に趙の旦那の怒りを買って村八分になり、仕事にもあぶれてしまう。食うに困って盗みを働き、逃亡同然の生活を続けるうちに、革命党が近くの町にやってきた事を耳にし便乗して騒いだ結果、革命派の趙家略奪に関与した無実の容疑で逮捕される。無知ゆえに、筋道立てた弁明もできず、流されるままに、刑場に引き出され、あつけなく銃殺されてしまった阿Q、観客たちは不満を述べ立てるのだった。

鲁迅は本作で、無知蒙昧な愚民の典型である架空の一庶民を主人公にし、権威には無抵抗で弱者はいじめ、現実のみじめさを口先で糊塗し思考で逆転させる彼の滑稽な人物像を描き出し、中国社会の最大の病理であった、民衆の無知と、無自覚を痛烈に告発した。物語の最後で、全くの無実の罪で処刑される阿Q、その死にざまの見栄えのなさに不平を述べる観衆たちの記述は、同胞の死刑に喝采する中国人同胞の姿にショックを受けた作者の体験を反映する。この体験や心境の変化は、鲁迅の小説『藤野先生』に描写されている。彼はプライドだけは高く、何もしない人間の典型として描かれている。阿Qという人物は、当時の中国の民衆の中にあつた、あらゆる種類の悪徳を

私と阿Q正伝

汪 楠

私は中国で生まれ、中国にて魯迅の本を読みました。その時には多くの純文学と同じく難解に思えました。

親の都合という不本意な形で来日して、人生で初めての差別やいじめを体験し、人生または社会に対しての見方が変わりました。その時に魯迅の本を読み直すと、日本の坂口安吾と同じくらい衝撃を受け、感銘を受けました。

魯迅は阿Qを愚か者として描いています。パラパラ読みするとそう見える。しかし何度も読み直し、その背景を知ると、人間の深層心理を描いていると理解できるようになります。

そのうち、自分の中に阿Qがいることに気づくのです。権力に弱く、知識のない、それでいて弱いものを見下す。わけのわからないまま、流行に盲従して失敗する。女性が流行りの洋服を買い、ある時期を過ぎて、その洋服を見るととても着れるものではないことに気づく。男性もまた流行のスーツを買い、冷静になってみると、演歌歌手の舞台衣装を買わされたことに気づく。

阿Qは「精神勝利法」という独特の思考法があり、客観的には明らかな敗北であるのを、内部の思考によって巧みに勝利にすり替えることができる。ちょっとわかりにくいですが、本来なら敗北すれば自尊心が傷つき、それを取り戻すには多大な努力が必要となるが、精神勝利法を使うことで敗北が勝利にす

体現する人物像として描かれている。彼は権威に弱い。卑屈なのである。世の中の秩序を盲信して、それがどこかおかしいなどと疑うこともない。例えば辮髪は、もともと異民族によって強要された風習であるが、今となっては自分たちの暮らしの中にとけこんでいて、なんらおかしさを感じることはない。世の中というものは、現にあるままに流れていくものなのであり、その流れの中では、強い者が先へ進み、弱い者は押し流されていくものなのだ。

しかし、阿Qも他人から理不尽なことで殴られたりすると、さすがに面白くない。しかし、相手が自分より強ければ、刃向かうこともできない。そこで阿Qは変な理屈を持ち出して自分を慰める。いま殴られたのは、息子に殴られたようなものなのだ。だからそう大事に考えなくてもよい。今の世の中は息子が父親を殴るような変な世の中なのだから、自分が殴られても不思議ではない。だからくよくよすることはない、といて、精神の平衡を保つのだ。それを魯迅は「精神勝利法」と呼ばせて、卑屈な奴隷根性の象徴としても描いている。そして阿Qの卑屈な奴隷根性は、阿Qだけの特殊なありかたではなく、中国の民衆全体に共通した情けない態度なのだ、と魯迅はいうのである。

次回の「阿Q正伝」講演会
5月15日 午後1時半

り替わり、自尊心が傷つかずに保たれる、ということだろう。つまり、自信を取り戻すための努力をせずに済むということ。どういう思考法かというと、自分が敗北したのに、その原因が自分以外のところにあると考えることで、自分は実力では劣っていないんだ、と考えることだ。

このようなところは自分自身にもないだろうか？私にはあります。不遇を他人のせいにして、努力しなかったことの言い訳にする。

4年前に阿Q正伝を学ぶ小さな勉強会を主催し、不定期ながらも20回ほどやりました。10名ほどの参加者に学校の教師や教育評論家、作家もいて、想像以上に本格的なものになりました。勉強会ではそれぞれがどのようにこの小説を読み、理解したかを発表し、いくつかの日本語訳を読み比べもして、とても楽しかった。そして私は中国語の原文を独自に翻訳して、中国ならではのニュアンスを話した。そして本日の上映作品を見つけ、ビジュアル的に発表し、好評を受けた。

PJの活動とは一見無関係のこの作品ですが、刑務所にいたとき、自分自身を含め多くの阿Qを目にした。権力に弱く、知識のない、それでいて弱いものを見下す。いじめに遭えば理不尽と愚痴り、かと思えば数日後に他の人をいじめて、刑務所のルールを教えてあげているのだと詭弁する。

出所後もそれが治らない人がいる。PJのスタッフだったAさんは覚せい剤で8回も服役し、今は9回目のお務め中である。地元の元ヤンが集まる場所では序列が低いにもかかわらず、ボスらの上座に座ろうとしてその手下らにつまみ出される。地元の忘年会でも二十歳の小僧に呼び捨てされ、飲み物を注文して来いよと命令される。それでも彼はチーム名を名乗り威張ろうとする。1時間2500円のチャイナパブで彼は一晩で35万円も払われ、手も握ったことのないママさんを彼女と自慢し、スマホの待ち受け画面にしている。億単位の財産を覚せい剤に費やし、無一文になって彼を保護したのですが、ことあるごとに私を見下し、バザーで売れ残った服を着る私に対して、そんなダサい服じゃ女にモテないぞという。ホームレス支援用の保存食を食べ節約している私に対して、落ちるところまで落ちたもんだねと嘲笑う。地元の顔役が私に挨拶をするのを見て、俺に挨拶がないのかよと小声で言い、それでも聞こえて寿司屋の外で若い衆に殴られる。

それでも彼にやさしくするのはなぜとよく聞かれる。PJの副代表である井手シスターも不思議に思っていたようです。『阿Q正伝』を読んで納得されたようです。受刑中の皆さんもこの小説を通じて自分自身の中にも、そして周りにもたくさんの阿Qがいることに気付いてほしい。



今回編集させていただきました私は脊椎5本の手術後、1年半がすぎ、4月15日16日には名古屋拘置所に面会に行くことができました。それで脚、腰に自信がついたので17日の汪楠さんの「阿Q正伝の講演会」に参加してみました。魯迅の「阿Q正伝」を読んで集まりました。時代背景は清から中華民国へと変わろうとする辛亥革命の時期です。

映画を見せて汪さんが解説してくださったので理解しやすかったです。

人間、究極の困難に置かれると、それとは真逆の状態を想像してその場を乗り越える力を貰う。恵まれた環境では絶対体験できないことです。

私達も神が与えてくださった一生で多くの体験を受け、それが何一つ無駄ではなく何かに生かされています。

塙の中の体験は第二の人生に生かされます。私は貧しくなって、感謝の念が深くなりました。無関係な10億より1000円が大金です。阿Qみたいな瑛子

ほんにかえるプロジェクト 会員募集

正会員年会費 (10月～9月)
3000円

寄付もよろしくお願ひいたします。

振込先

ゆうちょ銀行 10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行 018 支店

(普通)8623921

口座名義 ほんにかえるプロジェクト

ボランティアスタッフ募集

在宅のままできる

パソコン入力者・文通スタッフ

自宅住所は公開しません。プライバシー保護に細心の注意をはらっています。

かえるプロジェクトの 出版物・印刷物

汪楠著「我的童年」 500円

汪楠著「獄中書簡」 500円

絵ハガキ1枚 60円

絵入A5便箋10枚 100円

絵入A5便箋10枚

名前入り 150円

売上金はPJの活動資金になります。

発行所

〒134-0003

東京都江戸川区春江町5-15-31

ほんにかえるプロジェクト事務局

電話 080-8811-5465